

## 県南保健所感染症情報

令和7年 第 51 週

令和7年12月15日 ~ 令和7年12月21日

【発行元】長崎県県南保健所 地域保健課 TEL:0957-62-3289

## ◇◇定点把握の対象となる5類感染症 発生状況◇◇ (定点当たり患者数)

定点	疾病名	週別 発生状況						国・県・県南 発生状況						基準値		
		県南保健所						第 51 週						警報レベル	注意報レベル	
		49週	50週	51週	全国	長崎県	県南保健所	開始	終息							
	インフルエンザ定点	47.20	警報	56.40	警報	70.40	警報	32.73	警報	56.69	警報	70.40	警報	30	10	10
	COVID-19	1.00		1.00		1.20		1.24		0.47		1.20				
	急性呼吸器感染症(ARI)	69.40		72.80		95.20		77.34		98.82		95.20				
小児科定点	RSウイルス感染症	0.67		0.00		0.33		0.63		0.06		0.33				
	咽頭結膜熱	0.67		1.33		0.67		0.32		0.68		0.67		3	1	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7.67	警報	7.67	警報	7.00	警報	2.77		1.81		7.00	警報	8	4	
	感染性胃腸炎	0.00		0.00		2.00		5.33		4.32		2.00		20	12	
	水痘	0.00		0.00		0.00		0.39		0.77		0.00		2	1	1
	手足口病	0.00		0.00		0.00		0.06		0.13		0.00		5	2	
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.67		2.00	警報	0.67		0.51		1.16	警報	0.67		2	1	
	突発性発しん	0.33		0.67		0.67		0.22		0.45		0.67				
	ヘルパンギーナ	0.00		0.00		0.00		0.02		0.00		0.00		6	2	
眼科定点	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.00		0.00		0.00		0.03		0.00		0.00		6	2	3
	急性出血性結膜炎	0.00		0.00		1.00	警報	0.01		0.13		1.00	警報	1	0.1	
基幹定点	流行性角結膜炎	5.00	警報	5.00	警報	2.00		0.60		0.50		2.00		8	4	
	細菌性髄膜炎	0.00		0.00		0.00		0.03		0.08		0.00				
	無菌性髄膜炎	0.00		0.00		0.00		0.03		0.00		0.00				
	マイコプラズマ肺炎	0.00		1.00		0.00		0.81		0.83		0.00				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	0.00		0.00		0.00		0.01		0.00		0.00				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスであるものに限る)	0.00		0.00		0.00		0.02		0.00		0.00				

## ◇◇全数把握対象感染症 発生状況◇◇

※報告日掲載 (県作成速報:診断日掲載)

一類感染症	報告なし
二類感染症	【第51週】 結核 無症状病原体保有者1名(20代・女性)
三類感染症	【第51週】 腸管出血性大腸菌感染症 患者2名(10歳未満・女性1名、60代・女性1名)
四類感染症	報告なし
五類感染症	【第51週】 侵襲性肺炎球菌感染症 患者1名(80代・女性)

## ◇◇トピックス・季節情報◇◇

## ☆インフルエンザに注意しましょう。

第51週の管内の定点当たり報告数は70.4で前週よりも増加し、警報レベルの報告数が続いています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。

1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などが起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

## ☆腸管出血性大腸菌感染症の届出がありました。

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

○帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹼と流水で十分に手を洗いましょう

○肉類を調理する際は十分に加熱しましょう

○生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう

○下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう